

南関東防衛

平成28年
春号

平成28年春号 年4回発行 第11号

特 集

- 防衛問題セミナー
- FMブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ」
- 航空機事故等連絡協議会の開催

根岸住宅地区に隣接する根岸森林公園内梅園

第27回防衛問題セミナー

わが国の安全保障環境への対応と沖縄基地負担の軽減に向けて



南関東防衛局では防衛政策や自衛隊の活動などについて幅広く国民の皆様にご理解をいただくため、平成19年度から管内（神奈川県、山梨県、静岡県）各地において防衛問題セミナーを開催しています。

本年1月26日には神奈川県横浜市の神奈川県民ホールにおいて「わが国の安全保障環境への対応と沖縄基地負担の軽減に向けて」というテーマで第27回防衛問題セミナーを開催しました。

当日は、主催者である土本南関東防衛局長から開会挨拶があり、引き続き、講演に入りました。



挨拶を行う土本南関東防衛局長



会場となった神奈川県民ホール(横浜市)

今回のセミナーは、『わが国の安全保障環境への対応と沖縄基地負担の軽減に向けて』をテーマに、元防衛大臣で現在防衛大臣政策参与をされている、拓殖大学特任教授の森本敏先生を講師にお招きし、日本の安全保障はどのような問題を抱えているのか、そして日本南西方面、沖縄を含めてどのような戦略環境にあるのかについて話しをしていただきました。

森本先生からは、わが国を取り巻く外交・安全保障上の課題として、日韓関係、I S I Lの拡大に対する関係国の対応、シリア対応やウクライナ情勢を抱えるロシアとアメリカとの関係、そして、南シナ海、東シナ海における中国の活動と、それが日本へ与える影響や沖縄の米軍基地の重要性について、聴講者が理解しやすいよう、ホワイトボードに地図を描きながら説明されました。



そして、沖縄の基地負担軽減については、沖縄に在日米軍施設の多くが集中していることは事実であり、沖縄にだけ負担をかけるのではなく、訓練移転などをはじめ、本土の皆様も等しく沖縄の負担を感じ、負い合うことによって、米軍の抑止機能を維持するための努力をする必要があるというお話がありました。



講演を行う森本先生(写真:上下)



講演後、熱心に質疑を行う聴講者と説明する森本先生



講演に聞き入る約400名の聴講者



講演後、アンケートに感想を記載する聴講者

講演後、聴講者から「国際問題の要点が分かりやすく学べた」（50代女性）、「地図を使い、分かりやすく説明していただきよく理解できた」（30代男性）、「抑止力の必要性が理解できた」（60代男性）という多くの感想が寄せられました。

「遊びに来ませんかスタジオへ」

FMブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ（防衛トーク）」では、毎月第3木曜日午後3時から南関東防衛局長等が出演し、パーソナリティの灯織（ひおり）さんとともに日本の防衛政策などについて紹介しています。

1月21日は、土本局長と成人を迎えた若手職員4名が出演し、土本局長からは今年の抱負など、また若手職員からは成人を迎えた感想などについて話をしました。

（昨年を振り返って）

－防衛省・自衛隊としては、昨年9月19日、参議院本会議において、平和安全法制整備法と国際平和支援法、いわゆる平和安全2法が成立したことが一番の出来事だと思います。この法律は、いかなる事態においても日本国民の命と平和な暮らしを守り、また、国際社会の平和と安定に一層貢献するため、これまでの不備、穴を埋め、抑止力を高めるとともに、国際社会の平和のための国際社会の活動に対する協力の機会を広げるものです。

－神奈川県内の出来事では、昨年6月30日、横浜市瀬谷区に所在する上瀬谷通信施設が全面返還（242ha）されたことが挙げられます。また、池子住宅地区及び海軍補助施設において共同使用されている一部土地（約40ha）が昨年2月1日、「池子の森自然公園」として開園し、さらに12月2日、相模原市に所在する相模総合補給廠の日米共同使用区域（35ha）の共同使用が開始されました。

－米海軍横須賀海軍施設では、地元横須賀市等のご理解とご協力を得て、原子力空母が交代すると共に、6月と10月に2隻のイージス艦が追加配備され、来年度までに追加配備される予定です。

（今年の抱負）

－昨年の大きな成果も、関係者の皆様の努力の積み重ねの結果であり、ご支援・ご協力を頂いた地方自治体や地域の皆様、そして米軍の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

引き続き関係自治体、住民の皆様との信頼関係を築きつつ、自衛隊及び米軍とも連携を図りながら、わが国の平和と安定を守るために、当局の任務に全力で邁進してまいりますので、本年もよろしくお願い致します。

写真：土本局長、パーソナリティの灯織さん及び新成人となった局職員



また、2月18日は、陸上自衛隊中央輸送業務隊（横浜駐屯地）の総務班長が出演し、横浜駐屯地の沿革や中央輸送業務隊の任務について話をしました。

（横浜駐屯地について）

－横浜駐屯地は、昭和32年1月に横浜市保土ヶ谷区に開設された全国で3番目に小さな駐屯地です。

－現在は、中央輸送業務隊と通信、警務などの専門的職務を有する部隊が所在しており、約150人の隊員が勤務しています。

（中央輸送業務隊について）

－中央輸送業務隊は、防衛大臣直轄部隊として、主に民間の航空機や船舶を契約・取得して、自衛隊の人員や装備品等の国内外の輸送業務を主な任務とする、防衛省・自衛隊で唯一の部隊です。

－国外輸送任務は、国外で実施する日米共同訓練などに使用する戦車などの装備品などを輸送する任務と国際平和協力活動のための派遣部隊や物資、機材などを輸送する任務からなり、必要とされる世界各地への輸送を行っています。

－国内輸送としては、訓練に伴う輸送や、全国の駐屯地への物流便、又は調達弾薬輸送など補給に伴う輸送、災害派遣に伴う輸送を、上級部隊の計画に基づいて行っています。

災害派遣に伴う輸送は、被災地各地に送る物資を、集約、仕分けして、被災地に滞りなく輸送する任務であり、東日本大震災の際も、中央輸送業務隊が被災地の空港・港に展開し救援物資を輸送しました。

横浜駐屯地では、体験喫食を実施しています。詳しくはHPをご覧ください。



写真：中央輸送業務隊 松本1尉と灯織さん

FM・ブルー湘南：新成人の皆様「防衛省入省後、どのような気持ちで、毎日仕事をしていますか。」

調達部 設備課

松永 晃介 まつなが こうすけ

出身地：熊本県
趣味等：登山

成人の感想：成人を迎え少しは自信を持つことが出来、これからは一人の大人として仕事、普通の生活に緊張と責任感を持って行動したいと思います。

入省前は、主な業務が施設建設と聞いており自分達が電気の配線等を直接工事を行うものだと思っていました。実際は、工事監督、企画、設計、検査を行いながら受注者や自衛隊、米軍、地方自治体等との調整業務を行っていることに驚きました。今では監督業務にも慣れ、受注者との調整や現場監督等他ではあじわえないことが出来、日々充実しています。

調達部 設備課

岩崎 亮太 いわさき りょうた

出身地：宮崎県

趣味等：フットサル

成人の感想：成人を迎えた実感がわからないというのが正直な感想です。成人としての自覚を持ち、社会の一員としての責任を持って行動したいと思います。

入省前は、何も分からず、どのようなことをするのか不安でいっぱいでしたが、入省後は、日本の安全と平和のため、自衛隊や米軍基地の施設整備を行うとても重要な仕事をしていることが分かり、とてもやりがいを感じています。

まだまだ分からないことが多くありますが、日々勉強して知識をつけ、周りから頼られる存在になりたいと思います。



調達部 設備課

中尾 隼人 なかお はやと

出身地：長崎県
趣味等：剣道

成人の感想：成人を迎えたということで、自分自身の言動に気を付けて、責任を持って節度ある行動を取りたいと思います。

私達は、防衛の基盤となる、自衛隊や在日米軍施設に係る業務に携わっています。施設の建設工事の監督業務を行う中で、自分が係わってきた施設が完成した時は大きな達成感を味わうことが出来ます。また、使われている施設を見ると、日本の防衛や、国民の皆様が安全に暮らせる社会に、自分が少なからず貢献出来ているのではないかと感じます。

調達部 設備課

松本 健士朗 まつもと けんしろう

出身地：熊本県

趣味等：バトミントン、テニス

成人の感想：私自身、成人を迎えたという実感はまだわいて来ませんが、社会の一員として、さらに責任を持って行動するように心がけています。

自衛隊や在日米軍の施設建設の監督業務を担当しています。学生時代は溶接や旋盤等のものを作るための勉強をしていたため、最初は作る側と管理する側のギャップに戸惑いました。今は、施設建設の監督業務は、自衛隊及び在日米軍施設の品質に関わる重要な仕事と感じています。とても責任あるしごとでやりがいを感じています。

第29回航空事故等連絡協議会の開催

―米軍航空事故等発生時における緊急連絡経路の改善等―

航空事故等連絡協議会の開催

1月15日、第29回航空事故等連絡協議会年次総会を南関東防衛局において開催し、日米の23機関から約90名が出席しました。

本協議会は、神奈川県下における米軍又は自衛隊による航空事故その他不測の事故及び事故に伴う災害が発生した場合に備え、関係機関相互の迅速な連絡調整体制を整備し、総合的な応急対策の実施について連絡協議することを目的とするものです。

総会は、当局の伊藤管理部長の挨拶の後、安藤課長補佐から米軍航空事故等発生時における緊急連絡経路の改善及び所要の規約等改正について説明し、最後に、在日米海軍司令部のニーマイヤ政務補佐官から、関係機関による航空事故等に係る様々な取り組みに対し感謝の意と、今後、より一層の連携強化に積極的に取り組む旨のコメントをいただきました。

当局としては、平素から関係機関による連絡協議を行うことで、緊急の事故通報や総合的な応急対策を円滑にできるものと考えており、引き続き相互の緊密な連携に努めてまいります。

緊急連絡経路の改善等の内容

万が一にも事故が発生した場合には、迅速かつ的確な情報を提供すること等により、地域社会に及ぼす影響を最小限にすることが重要です。

今般の改善措置としては、一〇番通報等により、いち早く現場の初期情報を入力出来る神奈川県警察本部から、現地米軍に対し直接連絡を行う新たな連絡経路について採用することとし、所要の同協議会規約等の改正を行ったものです。

早期に詳細な現場の情報を米軍に提供することにより、米軍内での迅速な初動対応に資することとなり、当局から関係機関に対する連絡の迅速化も期待されます。



在日米海軍司令部 ニーマイヤ政務補佐官



南関東防衛局 安藤課長補佐

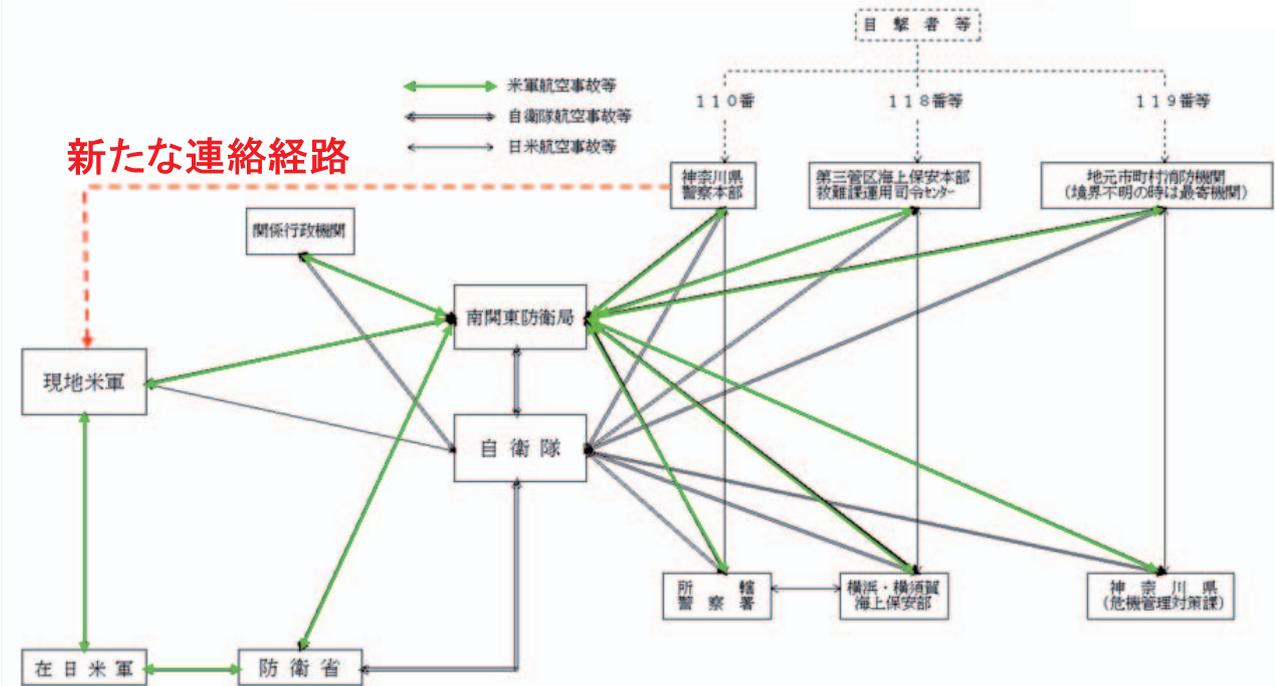


南関東防衛局 伊藤管理部長



協議会の様子

航空事故等緊急連絡経路図



南関東防衛施設地方審議会が開催されました



平成27年度南関東防衛施設地方審議会が委員6名の出席を得て平成28年2月8日(月)に開催されました。

本審議会は、南関東防衛局長からの諮問に応じて自衛隊等の施設等に係る不動産等に係る権利の対価の額に関する事項及び自衛隊等の使用により不動産等について生じた損失の補償額等に関する事項等を調査審議し、これらに関し必要と認める事項を同局長に建議する機関として、南関東防衛局におかれています。

当日は、諮問事項はありませんでしたが、委員の皆様には防衛行政に対する理解と当局の役割に対する認識を深めていただくため、局長から平和安全法制について説明するとともに、厚木航空基地において、基地の概要及び米軍施設の返還状況並びに防衛施設の借料について説明を行い、合わせて厚木航空基地の視察をしていただきました。



土本南関東防衛局長



高桑会長



厚木航空基地の現地視察

講師派遣のお知らせ

南関東防衛局では、当局管轄内（神奈川県、静岡県、山梨県）の自治体や大学等で、防衛省の政策、自衛隊の国際平和協力活動や災害派遣活動、南関東防衛局の施策等に関する研修や授業を実施したいといったご希望があれば、講師を派遣いたします。

講師派遣に伴う経費負担はございませんので、気軽に御相談下さい。

問い合わせ先
 企画部 地方調整課 地方協力確保室
 電話：045-211-7102
 E-Mail：skb@s-kanto.rdb.mod.go.jp



米陸軍座間基地「桜まつり」

毎年恒例の「日米親善桜まつり」が、2016年4月2日(土)、米陸軍座間基地で開催されます。開門は10時30分から18時です。

「春まつり」では米陸軍座間基地が一般開放され、会場内にはソメイヨシノをはじめとする約300本の桜の木があり、ハンバーガー、ピザ等のアメリカンフード等のブースが出展されます。

なお、入場は、日本国民を証明できる写真入りの身分証明書(運転免許証等)の提示が必須です。(13歳未満は必要ありません。詳しくはウェブサイト、フェイスブックにてご確認ください)



交通：小田急線 相武台前駅より徒歩15分
 JR相模線 相武台下駅より徒歩15分
 会場内に駐車場はありません。また、周辺道路は当日混雑いたします。

イベント情報

米海軍厚木基地「日米親善春まつり」

毎年恒例の「日米親善春まつり」が、2016年4月30日(土)米海軍厚木基地で開催されます。開門は10時から17時30分です。

「春まつり」では米海軍厚木基地が一般開放され、航空機や施設を見学したり、屋外で飲食することができます。航空機がフライトする飛行展示はありませんが、機体を至近距離で見学できます。

基地内では、アメリカ海軍、海上自衛隊の航空機地上展示、飛行隊グッズの販売、アメリカンフード等のブースが出展されます。

なお、入場は、日本国民を証明できる写真入りの身分証明書の提示が必須で、運転免許証をお持ちの方は合わせて本籍地記載の住民票が必要です。



交通：相模鉄道本線 さがみ野駅より徒歩20分
 相模鉄道本線 相模大塚駅より徒歩23分
 またはバスで5分

座間総合病院の竣工式

3月26日、4月1日の開院が間近に迫る中、座間総合病院において、竣工式が執り行われました。座間市の遠藤市長を初め、病院事業者はもとより、土本南関東防衛局長、在日米陸軍等からも多数の関係者が出席しました。

救急対応を担える病院の不足、病院用地の確保の問題、国有地活用の仕組みの改善等、病院事業を進めるにあたっての様々な課題を遠藤市長の強いリーダーシップのもと、在日米軍、関係省庁等からの協力を得ながら病院開院につなげてきました。

座間市民の大きな願いである病院、座間の地域社会の安心安全に対する市長はじめ座間市民の強い思いがあつたからこそなした事業です。



【左端から：パスカレット在日米陸軍司令官、遠藤座間市長】



【前列右から2人目：土本南関東防衛局長】

返還地全体の跡地利用

本返還地では、座間総合病院のほか、座間市が行う事業として、新消防庁舎の建設、公園の整備、市道の整備が計画され、順次進捗しております。新消防庁舎においては、防衛省の補助事業として、庁舎建設に係る実施設計が完了し、消防庁舎用地の購入を行った後、平成29年度中の完成を目指して取り組んでおります。さらに、座間市は、公園の整備も計画しており、整備計画の策定後、着手していくとのことです。

また、陸上自衛隊が平成25年5月から家族宿舍建設のために、在日米軍と共同使用をし、返還後の跡地利用を見据え、建設工事を実施しております。

キャンプ座間の一部返還地（5.4㌔）の跡地利用構想図

